

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第96回 ●

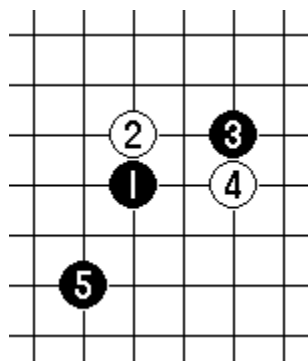
■ お題対局

前回、桑名七番勝負を紹介したが、それ以上に連珠普及に役立っているツールがある。それが「五目クエスト」だ。

その名の通り、五目並べのアプリなのだが、参加者数が凄い。トータルでは万に近い参加がある。基本は自由打ちだが、持ち時間が各5分（フィッシュヤーあり）なので、結構緊迫した試合になる。

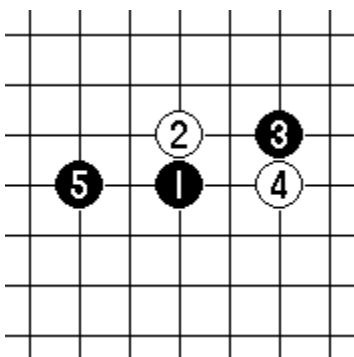
このアプリ、友達同士の対局も可能で、それには勝敗が記録されないため、練習にはいいツールである。そこで、藤田麻衣子さんが「お題」と称して一つの形を追求する試みを始めており、これが面白い。具体的に説明していこう。

残月黒5まで



例えば、先日のお題で出されたのがこの5までの形。こんな5はお目にかかったことはないが、調べてみると結構打てそうである。また、別の日には黒5の位置を変えたバージョンが提示された。

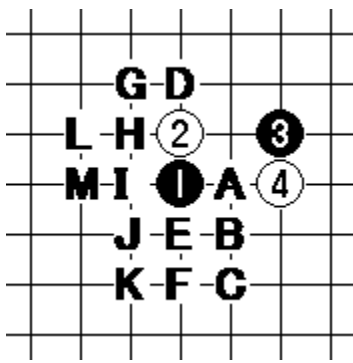
残月黒5まで



調べてみると、この5も打てそうである。そうなるのと、黒5は一体何題打てる

のだろうか？

黒5の候補

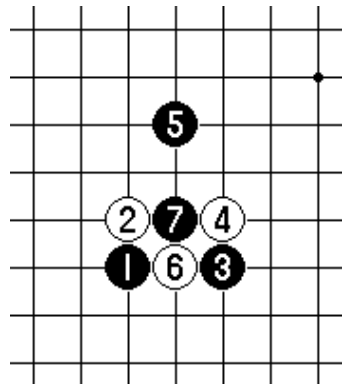


考えられる候補としては、右図のA～Mまで十題以上打てそう。これなら八題提示し、相手の顔を見て打つ場所（あるいは選ぶ場所）を決めれば良さそう。少なくとも心理上は優位に立てる。

別の例も見てみよう。藤田さんのお題提示の場所が絶妙で、これまで経験したことのない形を研究することができ、新たな世界に導いてくれる。

金星で白4は初めて見たが、それに対する黒5！も奇抜な一手だ。こんな5も、白4が弱いので十分成立し

金星黒5まで

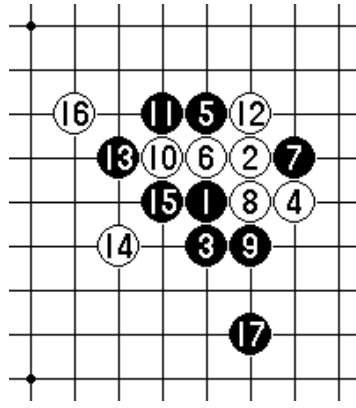


そう。例えば黒7までなら、黒悪くないだろう。

お題対局はだいたい2時間程あるのだが、1局10分とすると、ぶっ通しでやると十局以上できる。そうなるともう頭はへとへとである。また、友達対局はスマホでしかできないので、石を置くのに時間がかかり、時間が無くなると切れ負けになるのが多くなる。まあ反射神経が鈍ってくるのがそれ以上に大きいのだが、こういう短い勝負を勝つのはやはり実力がある人だ。（中山君にはとても勝てる気がしない）

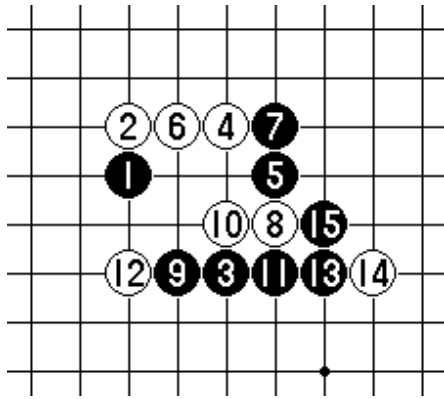
こういう突拍子もない形

以外にも、普通の形を指定されることもある。それはそれで、研究できるのであ
りがたい。
例えば銀月で白4と斜めに打ち、黒5と叩く形も最近多い。



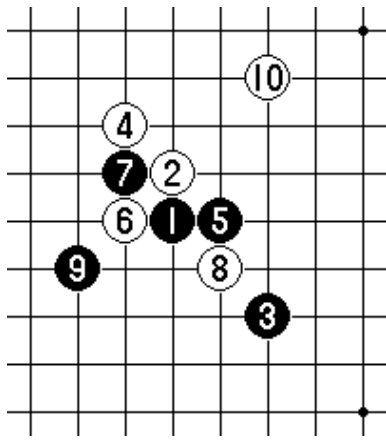
対して普通に進めるとこんな感じとなり、黒13までに白14、16と防いでみても黒17が絶妙の呼手で黒勝ちになることが分かった。となると、白も工夫して防がなければならず、例えば白8で12に打つ手なども研究できた。
こういう形を研究している所は、初見で何となく防

いできた時に、スピード勝負であつたという間に勝つことができないことである。相手の「あっ！」という顔を見るのが楽しみでもある。また、遊星の形もちらほら出てくるので、こういう時は先駆者として堂々と臨んでいる。そして「なるほど、こう打つのか！」と教えられることも多い。



遊星白4はなかなか面白い防ぎで、それに対し黒5はもともと打てると連珠世界の「遊星ガイド」にも掲載予定だが、その後の変化

はあまり突っ込んでいなかった。白6の三引きに黒7は右左両方ありそうだが、結論を言えば黒7と右から止めておき、白8に黒9と組んでしまえば黒がいい。白10の防ぎに黒11と引く手が見えなかったが、黒15まで必勝のようである。



遊星ではまた、白4、黒5の形も面白く、これは結構研究したのでほとんど負けることなく、いろんな人に教えることができた。こういうのも研究を確認することができるのでありがたい。ちなみに、黒9はやはりこちらから叩く手が最善

で、その時白も10と開くのが一番強い。ただ、それを理解するのはかなり難しい。五目クエストではチャットができないので、なぜその手がいいのか悪いのかを教えられないのがちよつぴり不満である。なので、重要局面は連珠ポータルからツイッターに投稿してフォローしている。

最近是这样いったツールが整備されてきたので、連珠を始める環境が良くなつてきているのが実感できる。たまに連珠会にやってくる人に、「五目クエストで実戦を積んでください」と紹介できるだけでもありがたい。「五目クエスト」の生みの親、棚瀬さんには感謝しきれません！（しかも、棚瀬さんは最近連珠も始めておられます）

前回の七番勝負の大川さんもそうだが、いろんな方に連珠を広めてもらっているのは本当に有難い！